

2023 年度

事業報告書

2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日

公益財団法人 日本補助犬協会

2023年度は、改正障害者差別解消法が2024年4月から施行され、合理的配慮が民間事業者にも義務付けられるのに伴い、各種団体・企業と連携し「障害の社会モデル」を基礎とするセミナーを開催した。また、対面での啓発活動も増え、コロナ禍で進んだオンラインについては、セミナー等で対面とオンラインを同時に行うハイブリッド式を積極的活用するなど、地域格差なく情報にアクセスできるよう努めた。

補助犬育成関係でも、身体障害者補助犬認定審査会において対面とオンラインによるハイブリッド式を昨年に引き続き取り入れ、補助犬希望者及び認定審査員の負担軽減を図りつつ、審査会での円滑な認定を行うことができた。

認定試験センター、医療室、老犬ホームとして活用していた一棟が、倒木によって損壊したが、クラウドファンディングで寄付を募り、二期に分けて修繕工事を行った。

◆公益事業実施状況

補助犬育成・貸与・認定事業

1. 補助犬(及び候補犬)の育成・認定及び貸与

次のとおり、補助犬6頭の育成・認定を行い希望する身体障害者に貸与した。
また、他団体育成の補助犬4頭の認定を行った。

1) 当協会が育成・認定した補助犬 6頭

盲導犬 2頭 山梨・神奈川

介助犬 1頭 秋田

聴導犬 3頭 東京・神奈川・新潟

2) 他団体が育成し、当協会が認定した補助犬 4頭

介助犬 1頭

聴導犬 3頭

3) 身体障害者補助犬認定審査会開催状況

次の通り2回開催した。

令和6年3月3日 認定頭数 5頭(介助犬1頭、聴導犬4頭)

令和6年3月10日 認定頭数 3頭(介助犬1頭、聴導犬2頭)

2. 補助犬ユーザー(使用者)に対するフォローアップ

補助犬ユーザーと補助犬の生活の質及び補助犬作業の質の向上を図るため、次のとおりフォローアップを行った。

1) フォローアップ

- ・全補助犬ユーザーからの定期報告書および補助犬健康診断書の提出(4月～5月)

- ・盲導犬ユーザーに対するフォローアップ

- 来所・訪問 7人 延べ 14日

- 電話・メール 13人 34回

- ・介助犬ユーザーに対するフォローアップ

- 来所・訪問 6人 延べ 21日

- 電話・メール 6人 36回

- ・聴導犬ユーザーに対するフォローアップ

- 来所・訪問 10人 延べ 36日

- メール・FAX 20人 30回

2) 補助犬希望者の相談業務

- ・盲導犬希望者の相談 3人 延べ 5回

- ・介助犬希望者の相談 2人 延べ 4回

- ・聴導犬希望者の相談 2人 延べ 5回

3. 補助犬候補犬の導入並びに繁殖、関連事項

1) 補助犬候補犬、繁殖犬導入

海外の盲導犬協会より候補犬4頭を導入した。

2) 聴導犬候補犬確保のための外部からの導入

国内の支援者より3頭の候補犬を導入した。

4. パピーの育成

パピーファミリー(仔犬飼育ボランティア)に委託している将来補助犬になり得る仔犬の飼育は、「社会化」と「月齢に応じたきめ細かいしつけ方」についてパピーの発達段階毎のサポートを行った。

- ・委託状況

- 12頭

- ・サポート方法

- 電話、メール、しつけ教室の開催、訪問等

- 電話・メール相談 51回

- しつけ教室の開催 2回

- 訪問 2回

5. 引退犬の支援

16頭の引退犬に対して協会医療室にて健康管理をサポートすると同時に引退犬ボランティアに対して老犬に対する飼育相談等を行った。

- ・医療室の利用 5件
- ・来所・訪問 24回
- ・電話・メール相談 65回
- ・医療費支援
- ・介護用品の貸し出し
- ・老犬ホームの施設整備

6. 職員の養成

職員に対し、日々のOJTとともに月1回の手話教室を開催し手話検定を受験した。また、外部講師による、繁殖学、動物行動学等の講義を行い、知識・技術の向上に努めた。

補助犬啓発関係

1. 「第11回もっと知って補助犬キャンペーン」

- ・期間 2024年2月1日～2024年3月31日

1) 補助犬フォーラムの開催(2024年2月21日、東京大学本郷キャンパス)

第一部では星加東京大学教授による「インクルーシブ社会を生きるための教養について」の講演、第二部では東京大学監修版「心のバリアフリー勉強会」を開催した。70名が参加した。

2) 心のバリアフリーあなたの提案による取り組み

① 企業・団体等における取り組み

- ・日本百貨店協会 web セミナーに講師として参加し『ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン～誰もが補助犬を知る、応援する、受け入れる社会の実現をめざして～』のタイトルで講演を行った。(2024年2月5日)
- ・大塚商会アンバサタードッグによる心のバリアフリー推進活動の実施(2024年2月7日)
- ・三井住友ファイナンス&リース株式会社で「補助犬セミナー」を開催(2024年2月28日)
- ・株式会社愛和で「補助犬セミナー」を開催(2024年3月17日)

② 一般市民を対象とした取り組み

下記のイベント・講演に参加し、補助犬の啓発を行った。

- ・湘南フィルハーモニー管弦楽団コンサート(2024年2月25日)
- ・レトリバーフェスティバル 2024(2024年3月17日)
- ・川崎市北部身体障害者福祉会館講演(2024年3月27日)

2. 啓発活動の実施

・セミナー	13回
・イベント	41回
・見学	8回
・補助犬介在授業	6回
・ファシリティ	6回
・AAE	13回

3. パンフレット・会報の作成・配布

当協会の組織概要・事業実施状況等に関する情報を発信することにより知名度の向上、支援者の発掘等を図るためパンフレット等を作成・配布した。

・パンフレットの配布

当協会のサポーター制度・寄付金の使途等に関するパンフレットをイベント等で配布した。

・会報の作成・配布

当協会の活動状況等について報告することにより、賛助会員及び募金箱設置の継続率向上、ひいては運営費の安定供給を図るため、会報「につぼけん通信」第23号を5,000部作成し、賛助会員、募金箱設置店、協力企業・団体に送付した。

4. SNSの充実・活用

ホームページの他、Facebookでは協会の活動を中心に掲載した。また、Instagramを活用し、補助犬の日常生活の一コマを中心に写真・動画を掲載し身近な存在として補助犬を理解してもらえよう情報発信の充実に努めた。また、Facebookで、クラウドファンディングの広告を行った。

5. マスメディア等での情報発信

補助犬の認知向上や当協会の活動内容を知っていただくため、積極的にマスメディアの取材に応じ情報発信を行った。

子供の情操教育活動

1. 東日本大震災被災地の小・中学校を中心に、東北地方の介助犬ユーザー、

ボランティアが下記場所を訪問し、子供の情操教育活動を行った。

- ・令和5年6月27日 紫波総合高等学校
- ・令和5年9月14日 盛岡市立山岸小学校
- ・令和5年9月27日 金ヶ崎町立第一小学校
- ・令和6年2月26日 盛岡市立向中野小学校

2. 学校教育における取り組み

下記学校において、補助犬及び「心のバリアフリー」普及を目的とした補助犬介在授業を実施した。

- ・横浜市立中川西中学校(2024年3月1日)
- ・東京都港区立青山中学校(2024年3月8日)

運営上の課題解決に向けた取り組み

経営会議の開催

円滑な組織運営を推進するため経営会議を6回開催した。

その他

1. 横浜市との連携

「人と動物との共生推進よこはま協議会」委員として協議会に参画した。

2. 日本ヒルズコルゲート株式会社から社員派遣、および協会在所犬のドッグフードの提供を受けた。

3.クラウドファンディングの実施

1)クラウドファンディング「補助犬医療費サポートプロジェクト」を実施し、259名の方から6,126,000円の寄付収入を得た。

2)クラウドファンディング「老犬ホーム再建プロジェクト」を実施し、1364名の方から20,240,000円の寄付収入を得た。

◆ 収益事業実施状況

商品販売事業

1. 補助犬チャリティー商品の制作・販売

	研修生	0	2	2	0	0	0	0	2	2
	獣医師・トリマー	0	0	0	1	1	2	1	1	2
普及啓発部門	広報・啓発	0	0	0	1	0	1	1	0	1
計		1	5	6	2	4	6	3	9	12

注) 業務委託、派遣社員含む

◇施設の状況

1)所在地 横浜市旭区矢指町 1954-1～2

2)敷地面積 (単位 m²)

訓練センター	955,64
認定試験センター	498,50
計	1454,14

3)建物 (単位 m²)

区分	構造	延床面積	主な施設
訓練センター	木造2階建て	497,70	事務室、ミーティングルーム、ケネルブリーディングルーム、グルーミングルーム、共同訓練用居室(4室)、食堂、厨房、浴室、多目的ルーム
認定試験センター兼老犬ホーム	木造平屋建て	188,79	犬用医療室、老犬ルーム、多目的ルーム、ゲストルーム